



SUCCESS STORY 日進堂グループ

PROSPER S5 新しい収益の柱となる確かな投資

四六全判縦通しの高速搬送ラインにKODAK PROSPER S5を4台搭載。
成長が見込まれるパッケージやカードなど厚紙へのバリエブル印字分野で
新たなビジネスチャンスの創出を目指す。

東北屈指の総合印刷会社

日進堂グループは、福島県福島市に本社工場を構える日進堂印刷所を中心に、トキワ印刷、進和クリエイティブセンター、エス・シー・シーの4社からなる東北屈指の総合印刷会社である。グループ4社の総合力でチラシ、ポスター、カタログ、広報誌など各種印刷物の企画制作から編集・デザイン、印刷・加工まで一貫生産し、地元福島をはじめ東北エリアから東京まで幅広い顧客の要望に柔軟に responding。また主力の印刷ビジネスに加え、イベント、映像制作、商品開発、WEBサイト構築、エコ事業などビジネス領域も多岐にわたる。グループ4社の代表取締役社長として、365名の従業員の先頭に立つ佐久間信幸氏は「できない理由ではなく、できる方法を考える」を企業モットーに、「グループ各社の持つ強みと特色を結集し地域の成長に貢献することが、日進堂グループの使命」だと語っている。

「スピードと信頼性、実績を考慮すると、
選択肢はKODAKのPROSPERしか
ありませんでした」

パッケージ印刷のバリエブル印字に挑戦

2019年12月、同グループはKODAK PROSPER S5インクジェットプリンティングシステムを4台搭載した四六全判（縦通し）・厚紙対応の高速バリエブル印字システムを導入した。システムの最大の特長は四六全判クラス（最大：天地850mm×流れ方向1,200mm）の刷本に設定された可変印字エリアを4台のPROSPER（印字幅：106mm×4）でカバーしている点だ。導入の目的について佐久間社長は次のように説明している。



代表取締役社長 佐久間 信幸 氏



生産管理部部長 三瓶 隆二 氏



製造本部本部長付次長 赤間 輝三 氏





高速バリアブル印字システム

仕様

最大用紙サイズ:天地 850mm×流れ方向 1,200mm
バリアブル印字幅:106mm (4.16 インチ) ×4

構成

- KODAK PROSPER S5
インクジェットプリンティングシステム ×4
- シートフィーダ (正栄機械製作所)
- OCR/QR/BCバリアブル検査装置(マイクロテクニカ)
- インクジェット用 NIR ドライヤー装置(トーコー)
- 大判シートスタッカー (Natgraph)

「当社には、デジタル印刷やバリアブル印刷に関する長年の実績があります。ビジネスフォームのナンバリング印刷にはじまり、宛名印刷や QR コード/バーコードの変換印刷、さらに近年では絵柄やテキストまで差し替えるフルカラー・フルバリアブルの仕事まで手がけるようになりました。ただ今までは薄紙・小～中サイズの仕事を中心で厚紙印刷は一部に限られていました。今後は、成長が見込まれる厚紙・大判分野のバリアブルデータ印字のニーズに応じてゆきたいと考え、PROSPER S5 の導入を決断しました」

実際、QR コードやシリアルナンバーを印刷物に印字して WEB サイトに誘導するマーケティング手法は、チラシや DM、シールだけでなく、商品パッケージにも広がりを見せている。PROSPER S5 を搭載した四六全判・厚紙対応のシステムなら、これまで不可能だった大型の商品パッケージにも印字できるので、新しいビジネスチャンスの獲得につながる。またスクラッチカードなど小サイズの仕事では、多面付けによる大量処理・高速処理が可能のため、生産性の飛躍的な向上が期待できる。もちろん厚紙だけでなく、薄紙の仕事も処理できるため、幅広い仕事での活用が可能となる。

20 年超の技術力、確かな運用実績、信頼性を高く評価

今回のシステム構築に際して、佐久間社長は「大判対応」「厚紙印刷」「高速性」の3つを選定基準としていた。ただプリントヘッドの選択肢は「KODAK の PROSPER しかなかっ

た」と佐久間社長は断言する。その背景には 20 年を超える KODAK のインクジェット技術の蓄積、海外はもちろん日本国内でも数多くの著名な印刷アプリケーションで使われている確かな実績、そして大量・高速生産などハードな運用にも揺るぎない高い耐久性と信頼性があった。導入半年前には同クラスのシステムを導入している PROSPER ユーザーを訪問し、実際の稼働状況を確認するなど万全を期した。工場見学に同行し印刷テストも実施したトキワ印刷・製造本部部長付次長の赤間輝三氏も PROSPER S5 の性能を高く評価している。

「精度が良く印字品質にも全く問題がありませんでした。スピードを出すとブレがあると思っていたのでその精度の高さには本当に驚きましたね」
生産管理部部長の三瓶隆二氏はシートフィーダに着目し「用紙搬送性能が素晴らしかった」とシステム全体の印象を語ってくれた。こうして KODAK (PROSPER S5) を中心に、正栄機械製作所 (シートフィーダ)、マイクロテクニカ (バリアブル検査装置)、トーコー (NIR ドライヤー装置)、Natgraph (大判シートスタッカー) の 5 社が結集して、国内のみならず海外メーカーも含めても比類ないシステムを構築した。運用を任せられたのは厚紙印刷の経験が豊富なトキワ印刷で、12 月中旬には福島県須賀川市にある同社工場に設置された。

導入後 1 カ月で常速 120m、四六全判で毎時 6,500 枚を達成

師走の慌ただしい時期の導入だったにも関わらず、KODAK のきめ細かなトレーニングとサポートのおかげで、同社はシステムの垂直立ち上げに成功している。年が明けた今は、薄紙からボール紙まで多種多様な用紙の印刷適性を確認しながら、印刷サンプルの作成など営業活動の準備に忙しいとのこと。営業マンが受注しやすいようデータ作成の手引きなどもつくっている。PROSPER の印字精度・品質は「期待通り」と赤間次長は太鼓判を押している。生産速度は PROSPER の最高印字スピードである毎分 150m が目標だが、すでに常速 120m、四六全判で毎時 6,500 枚を達成している。今後、搬送ライン全体の安定性を高めることで、さらなる高速化も可能になるという。導入からわずか 1 カ月ほどだが、すでに複数の顧客から仕事の打診も受けていると佐久間社長は自信を見せる。メーカーの押しつけではなく、「印刷会社が理想とする付加価値の高いシステム」を KODAK が中心に 5 社がチームとなって特別開発したことで、「価格競争に陥らない収益性の高い新しいビジネスを切り開く」という佐久間社長の夢が現実となる日もそう遠くないことだろう。

日進堂グループ

代表取締役社長：佐久間 信幸
株式会社日進堂印刷所
〒960-2194 福島市庄野字柿場 1-1 (福島西工業団地)
TEL: 024-594-2211 (代)
<https://www.nisshindo.jp/>

写真はトキワ印刷 (福島県須賀川市)



コダック ジャパン

<http://www.kodak.co.jp>
〒140-0002 東京都品川区東品川 4-10-13 TEL.03-6837-7285 (営業代表)
大阪:050-3819-1266 名古屋:050-3819-1265 福岡:050-3819-1270
仙台:050-3819-1255 札幌:050-3819-1250